

教育委員意見交換会

日時 令和4年12月19日(月) 午前10時35分～午後1時15分

場所 堺市役所 本館3階 大会議室1

出席者 河盛幹雄委員、宮本功委員、新谷奈津子委員、鈴木真由子委員、長田翼委員

(事務局)山崎久樹教育次長、長山秀基教育監

中山真裕美教委総務部長、岩井伸司教委総務課長、

富岡重幸教職員人事部長、樋口信征教職員企画課長、志波政宏教職員人事課長、

藤本慎也教育センター所長、渡邊耕太能力開発課長、

橋本宏司教育政策課長、至田義朋教育政策課長補佐、楠本奈央子教育政策課企画係長

案件

- ・堺市立学校職員の初任給、昇格、昇給等に関する規則及び堺市立学校職員の期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について
- ・堺市立学校任期付管理職(校長)の公募の結果について
- ・教育委員会会議資料のペーパーレス化について
- ・令和5年度当初予算要求について(報告)
- ・総合的な学力向上施策の今後の展開について(学力調査関係)
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の参加について

・堺市立学校職員の初任給、昇格、昇給等に関する規則及び堺市立学校職員の期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について

堺市立学校職員の給与及び旅費に関する条例の一部改正による給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表及び降格時号給対応表並びに勤勉手当について所要の改正を行うため、本規則を改正する旨を説明。

(主な意見)

- ・特になし。

・堺市立学校任期付管理職(校長)の公募の結果について

令和5年度堺市立学校任期付管理職(校長)選考について、最終合格者を決定した旨を説明。

(主な意見)

- ・学校管理職未経験の民間企業出身者もいるため、研修体制や就任後のサポートもしっかりと行う必要がある。
 - ・メンターの役割の校長を指定することで、任期付の校長が普段から気軽に何でも聞くことができる体制も必要と考える。
- ⇒事前研修も予定している。また、校長として就任する4月以降は、定期的に元校長の職員等が着任校を訪問し、当該学校の現状や状況等を市教委も把握しながら、しっかりとサポートをしていく。

・教育委員会会議資料のペーパーレス化について

教育委員会会議(教育委員会会議、意見交換会)におけるペーパーレス化を推進するため、タブレット端末が確保できる見通しがたったことから教育長と教育委員の紙資料を廃止し、タブレット端末で資料データを閲覧する運用に変更する旨を説明。

(主な意見)

・ICT 化が一步進んだ。教育委員会会議では、タブレットで資料の閲覧のみ行うということ。今後、メモ機能の活用など、利便性を高められるよう引き続き検討を進めてほしい。

⇒今後、より良い運営が行えるように改善していきたい。

・令和 5 年度当初予算要求について(報告)

令和 5 年度当初予算編成における市の方針をふまえ、教育委員会の当初予算要求にあたり、現在の予算要求概要(令和 4 年 12 月 19 日時点)のうち、拡充項目を中心に説明。

(主な意見)

・モデル学校群における進捗状況について、外部の有識者等に相談できる体制・客観的に評価できるような仕組みを活用することで前進することも考えられる。

⇒有識者の意見も聞きながら、モデル学校群の事業を前進させていきたい。

・総合的な学力向上施策の今後の展開について(学力調査関係)

総合的な学力の向上に向けて、調査等を活用し、学校が早い時期から個々の子どもの学習状況の把握を行い、個々の子どもの総合的な学力の伸びに着目しながら、授業改善、ICT を活用した学び直しやカリキュラムの改善等を行うことができるよう、令和 7 年度に向けて、学力向上施策を整理した資料で説明。

(主な意見)

・令和 7 年度実施予定の個々の子どものデータの蓄積に関する取組について、小中学校がより一層の連携をすることで、「個別最適な学び」の実現にも近づくとする。モデル学校群においては全学年で、一人一台端末を使用したテストなどを実施することが効果的だと思われるが、モデル学校群で先行実施するような想定はあるか。

⇒モデル学校群からもそういった意見を聞いているので、モデル実施したいと考えている。

・全国学力・学習状況調査や大阪府の中学生チャレンジテストなど様々なテストがあるが、結果はテストごとに見えるものなのか、テスト同士を関連させた形で確認できるものなのか。教員や保護者による学校・家庭生活上の気付きの点なども含め、病院のカルテのように網羅的に情報を確認できるようなものがあれば、「個別最適な学び」にも繋がるとするし、「学校群」を進めて行くにあたって大事な視点だと思う。

⇒個々の子どもの伸びが見られる仕組みを構築しているところであり、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテスト、大阪府の小学生すくすくウォッチのわくわく問題については、令和 4 年度に小学 5 年生から 6 年生の伸びがどのような状況であったかを見えるようにしている。また、Microsoft アカウントを活用し、個々の子どもの情報全体を見られるよう「ダッシュボード」といったものを検討しているところである。

・非認知データをどのように生かしていくのかも重要であり、児童生徒の生活にどのように関わっていきけるのかといった視点でのカリキュラム構成の検討についても指針としてあると良い。また、カリキュラム構成等について先生方が議論するのを支援するような情報共有の仕組みができれば良いと思う。

⇒総合学力プロフィール(自校の子どもの学力を多面的・総合的に捉えたもの)の活用については、学級・学年、学校内で共有しながら活用するよう学校には求めているところ。また、そのファシリテーター役の育成研修においても、スキル面の向上も含めて学校に伝えているところであり、総合学力プロフィールの効果的な活用について検討を進めていきたい。

・令和5年度全国学力・学習状況調査の参加について

令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領に基づき、令和5年度の実施日や令和4年度との変更点、今後の予定等を中心に説明。

(主な意見)

・英語の当日実施校について、文科省から指定されるとのことだが、全国で何校か。期間内実施校については、各学校が実施日を選択できるのか。

⇒当日実施校については、全校で500校である。また、期間内実施校については、同時一斉実施によるインターネット通信環境の負荷もふまえ、各学校の希望日を聞き取りし、希望日の中から、改めて文部科学省から実施日が指定されることとなっている。